

善知安方忠義傳

二編

叁

^ 13
3237
11



へ 13
3237
11

善知安方忠義傳第二輯卷之三

東都

荷助糸遊と將て上野へ去る

高純睡中小歡樂と夢と

緑龜館文庫

松亭金水編次

第五回

かくて西條重太郎高純の老る父と後小遺へ

進退の便を悪しと春の夜北明を去り

金井が家へを望みて表の戸と

彼馬主が歡待小い

重太郎が思ひ小敲く

唯駒と熟睡せり

重太郎の夜

善知安方忠義傳第二輯卷之三

七月十九日

中。小。蔵。を。敲。ぐ。四。隣。の。人。小。怪。ま。ら。ん。と。あ。の。声。を。も。と。び。指。の。先。に。三。回。ツ
 五。の。鼓。は。も。回。答。を。け。し。訝。し。も。家。小。居。る。れ。さ。の。里。見。が。方。を。あ。ら。わ。り。と。説。小
 頭。の。廻。ら。せ。ど。も。里。見。の。こ。ま。り。山。を。と。四。五。町。隔。る。と。い。ふ。所。の。所。も。あ。ら。わ。り。と。説。小
 女。の。足。小。を。旁。ま。ら。ん。と。あ。の。こ。ま。り。再。び。拳。を。揚。げ。四。ツ。五。ツ。と。あ。ら。わ。り。と。説。小
 あり。の。い。ふ。公。急。ま。さ。う。も。敲。く。音。小。下。僕。の。擁。内。目。を。て。い。と。怪。し。ま。寐。惚。る。声
 たり。揚。げ。の。真。夜。中。小。門。を。敲。く。誰。人。ぞ。と。い。ふ。と。西。三。回。答。め。ら。せ。て。も
 現。や。落。人。の。萩。の。葉。の。戦。々。小。さ。も。駭。く。と。い。ふ。喻。小。の。こ。ま。り。重。太。郎。の。尚。も
 荷。助。が。家。小。在。る。誰。と。も。い。ふ。と。あ。の。こ。ま。り。と。い。ふ。と。荷。助。の。名。を。い。ふ。
 声。を。低。め。て。氣。遣。さ。者。あ。ら。わ。り。と。あ。の。こ。ま。り。と。い。ふ。と。金。井。の。家。小。在。
 ぬ。と。あ。の。こ。ま。り。明。る。小。な。ち。と。い。ふ。と。擁。内。寐。惚。る。耳。あ。の。定。く。小。さ。と。あ。の。こ
 死。あ。ら。わ。り。主。の。荷。助。が。枕。方。小。ゆ。さ。遽。ち。揺。起。て。如。此。と。あ。り。と。い。ふ。と。小

今日。の。馬。盗。人。が。仕。返。し。小。来。る。も。あ。ら。わ。り。と。あ。の。こ。ま。り。剽。軽。と。い。ふ。と。怖。ら。し。い。と
 荷。助。の。及。び。さ。の。小。の。今。の。真。夜。中。あ。ら。わ。り。と。あ。の。こ。ま。り。門。を。敲。く。你。が。い。ふ。と。い
 僻。者。あ。ら。わ。り。と。あ。の。こ。ま。り。誰。令。仕。返。し。小。来。る。と。い。ふ。と。何。ら。と。い。ふ。と。あ。の。こ。ま。り。漫。小。戸
 と。あ。の。こ。ま。り。頼。て。荷。助。の。枕。方。小。脱。捨。て。り。衣。類。を。着。し。脚。半。甲。掛。小。刀。然
 さ。く。固。め。土。瓶。小。冷。る。湯。を。汲。て。三。杯。吮。と。潤。を。表。小。の。後。ち。佗。て。ま。さ
 ち。と。あ。の。こ。ま。り。敲。く。荷。助。の。自。ら。ま。さ。と。い。ふ。と。汝。何。等。の。曲。者。と。い。ふ。と。あ。の。こ。ま。り。名
 子。を。戸。を。敲。く。女。童。の。怖。も。せ。ん。と。い。ふ。と。荷。助。と。見。損。ひ。と。い。ふ。と。あ。の。こ。ま。り。大。音。小
 言。ま。り。重。太。郎。の。心。小。笑。ひ。と。い。ふ。と。こ。ま。り。居。る。重。太。郎。あ。ら。わ。り。と。あ。の。こ。ま。り。夜。蔭。小。遠。也
 糸。ら。ま。さ。と。い。ふ。と。心。を。あ。け。ま。と。止。り。と。い。ふ。と。得。る。所。の。と。頼。と。胸。を。あ。ら。わ。り。と。あ。の。こ。ま。り。荷。助。の。訝。を
 ち。と。あ。の。こ。ま。り。掛。袂。外。に。瓦。落。裡。と。胸。外。の。方。小。惶。ず。む。兩。個。と。い。ふ。と。あ。の。こ。ま。り。怖。ま
 か。と。い。ふ。と。あ。の。こ。ま。り。詈。言。る。純。は。と。い。ふ。と。佗。も。あ。ら。わ。り。と。あ。の。こ。ま。り。眉。を。擡。め。て。俸。の。体。平。は。と。い。ふ。と。あ。の。こ

訝るゆぞ重太郎の四考と云んまの。沓脱へ身ていまして訝るゆの有理あり。
箇様との仔細より父の言葉の黙止ぐ。まゝ且の意不任。怖諸俱小
出まどと信と在下と召連下る。証文さ知るあ。在下家小在むといひて。
知縣その仇小済えや。まゝその崇重老父が身一人小ゆるさてりては老功の
存不小彼君臣と説けりとも。奸佞の知縣争うの父を放ち飯す。然れば父が
厄難安危側をぐるこの秋小至。まゝ退小忍びんや。まゝ強て頼抵さる。
亦その慈愛莫大る。恩と養と小情とをばまて。まゝのありまど。在下の
取てかへし。潜を知縣の動静と窺ひ父の先途を見届けて俸あつてままを
る。倘父が身小解あつて命と捨てて救りぬ。固て愿ふの怖の工とあり。
足下今より怖と伴以上野なる草津の郷鬼石許へ送まて後松とあり。
特とあせま。且の是等の一大度と。知せま欲て系りつと。詞短う小い

けまの。荷助のゆて大小の事と。まゝひのかけぬ大事。貴客が特とあつてさ香む
あつたあま。まゝ。糸松の毒と草津へ送あつた道の案内とあり。在下の
限あま。まゝ。この禍とひき出せ。此方小知るぬとあり。貴客と在下。西個小
あり。まゝ。知縣貴客と捕へて辛ま。自らせん。欲すま。縁の本度小聞
怖と容易に。下ま。故小老人の父君と捕へて半の質とするあり。されば
貴客が在らば。まゝ。心地父君と獄舎へ下。且貴客が救ひ小来ま。防さ巖
重なるす。ま。譬。樊噲周勃と欺く。ま。勇あり。ま。貴客一個を
父君と救ひぬん。ま。ひも。ま。空く知縣が毒小。羅王命と預。ひん
る。鏡ふるけ。ま。物の要あ。ま。ま。能て。ま。在。下。三。月。胞
の。ま。愿。死。生。ま。俱。小。せん。と。誓。ふる。小。か。る。大。事。と。密。に。糸。松。の。毒
と諸共。小。上野へ赴。ま。ま。危急の場小外。ま。んと。遺。憾。を。ま。ま。の。り。吾。家。の

僕権内の元上野の権より。彼処の案内より。性素悪るれど直小
 ちてよく義者なるのるも。彼より系柱の毒を草津へ送る遣るもの。遣
 るも。ほは然と在下の貴客と俱小先生。高資。ケ安否と窺ひ万一の事あるん
 ぬ。一臂の勞小換するん。只當この義と評させると。餘儀もあけおしけり。
 重太郎の波あふて頭と左右うち掉て足下。詞勇はしく。且その志の今小指
 めと。いと歡びさるのる。肺と足下。下僕小委ねて。鬼石が方へ送りかじ。
 と。この心を。足下。好意を空くも。小他。ことどの事。不仔細のあ。む。尚小
 月。父知縣の動静と粗察して。郷の。出に。へ。人。と。通。り。必。志。も。守。は。げ。ま。ら。
 その心と退下。さ。ま。の。山。を。紙。え。溪。と。攀。龍。が。鼻。より。洪。津。へ。懸。る。踏。の。難。下。
 ろ。こと。大方小免る。然。こと。も。尚。彼。處。小。の。間。者。ある。是。を。拒。ま。ば。討。捨。て
 溪へ。抛。入。を。根。と。断。て。急。る。と。と。律。細。を。示。し。め。り。と。二。人。も。討。決。さ。ば。逃。飯
 。

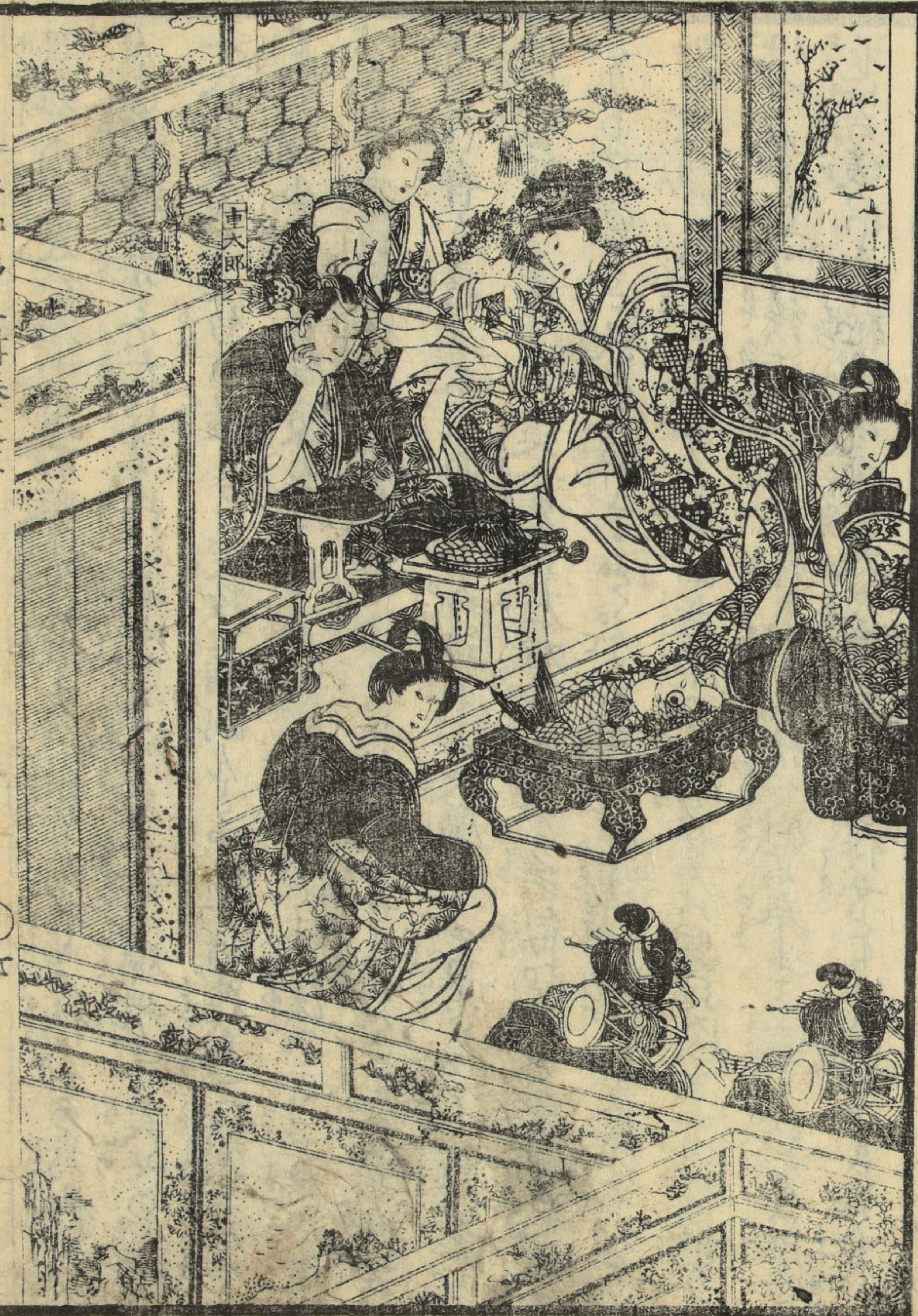
ア。その。こと。新。へ。ら。ま。ん。と。名。は。か。る。り。さ。ま。の。事。を。持。む。べ。さ。の。足。下。と。里
 見。の。西。個。小。限。より。さ。の。と。女。を。伴。ひ。て。中。と。辭。悵。お。ひ。め。の。是。よう。也。小。里
 久。ゆ。え。の。こと。特。む。べ。さ。の。義。の。談。論。小。時。と。移。さ。ば。い。よ。く。父。が。意。小。悵。を。示
 大。り。も。過。つ。べ。し。何。か。く。と。急。さ。る。と。金。井。の。波。を。現。由。と。曉。を。知。る。條。あ
 ら。ば。争。う。否。ま。ん。在。下。座。小。を。出。下。物。の。要。め。の。ま。ま。も。あ。ま。今。小。如。く。権。内
 の。思。あ。づ。も。あ。り。て。走。使。も。健。る。ま。ま。一。個。小。の。倍。と。も。あ。り。ま。ん。さ。ま。の。渠。と。が
 跡。小。遺。し。て。貴。客。が。勞。と。擧。ぐ。べ。と。権。内。と。喚。を。づ。け。あ。づ。ぐ。の。こと。の。合。め。吾。も
 草。津。へ。系。柱。の。毒。を。送。る。ま。ま。取。て。か。下。律。の。さ。う。と。波。は。け。ま。と。夫。より。箇。小。和。子
 ち。ま。の。地。と。退。さ。め。る。あ。づ。は。さ。小。成。換。ま。て。万。一。く。物。せ。よ。と。詞。短。小。分。換
 て。さ。て。系。柱。を。伴。ひ。て。ま。出。ん。と。ま。る。と。系。柱。の。女。あ。づ。の。心。雄。く。し。ま。り。の。あ。ま。の
 父。と。弟。が。存。亡。と。測。ま。が。こ。小。阿。容。と。先。達。て。遁。ま。退。ん。と。人。さ。る。り。の。本。念

ろ後その一什とん居けて。死生と俱ありてん。とうち歎き。重太郎が被と控そ
 ろ口説と重太郎のえん。その理ある心あるまど。おと父うの命ある。おむら
 却て不孝あるん。まも吾が存亡と案。おのを程ある。おと。はや。如縣。之。殊の人
 数を揺と取捨とも。在下些の勇威と震り。利刃とて麻売と難より。も容易
 かるべ。その場お至下をわん。の在る。却て足と纏ひあり。まも。之。邊の。人。を。結
 句幸ひおられ。史書と案。苦のいど。おと。出の。に。龍。が。鼻。を。流。片。の。山
 踏と難なる。お足と痛ゆる。おと。の。い。喻。まも。今。の。ま。不。む。お。お。の。く。ま
 その別々の情も。まも。と。せ。い。と。ま。ま。と。ま。ま。の。涙。の。滝。の。玉。す。れ。間。あ。ま。ま。を。お。流。流。は。と。
 拭ひ。取。まも。ち。歎。く。重太郎の猶言葉。お勵。まも。金井。お。暇。眼。まも。荷。助。も
 まも。心。を。お。と。ま。お。の。い。慰。め。夜。の。ぬ。ぬ。ま。お。の。境。まも。便。ま。お。お。ん。と。お。と
 糸と先。お。ま。喘。て。お。も。重太郎の跡。目。送。まも。是。を。聊。心。易。し。と。権。内。と。ち

招き。你。今。より。里。か。く。お。ま。ま。の。は。密。お。告。お。せ。よ。吾。夜。明。ま。ま。お。歌。ま。その
 左右と候。まも。里。見。お。俱。お。来。んと。まも。の。所。へ。伴。お。く。と。の。い。合。む。ま。推。内。心。を
 い。ま。ま。ま。ま。の。重太郎の主僕。まも。ち。お。ま。ま。ま。ま。の。教。家。お。ま。ま。の。伸。し。臂。枕。を。て。お
 ま。ま。ま。ま。の。行。未。と。彼。見。と。お。ひ。ま。の。昔。時。と。ま。ま。甲。夜。よ。の。旁。ま。ま。お。け。ん。忽。地。お
 ま。ま。ま。ま。の。向。睦。後。の。り。ち。お。所。の。何。方。と。ま。ま。の。定。ら。る。ぬ。が。善。美。と。ま。ま。金。殿。樓。閣。珠。の
 階。朱。の。欄。干。庭。上。の。砂。の。数。ま。ま。金。銀。の。ま。ま。の。瑪。瑙。の。礎。温。ふ。珊。湖。の。柱。溜。璃。の。扉
 現。お。七。珍。と。樓。ま。ま。の。の。る。る。國。王。の。宮。造。お。ま。ま。の。樓。門。の。下。お。ま。ま。の。り。ち。の
 有り。お。祝。入。る。お。年。六。十。可。ある。いと。薨。め。ま。武。士。が。綾。羅。錦。繡。と。粧。ま。ま。の。年。十。七。八
 より。二。十。可。の。美。女。お。多。を。伴。ひ。て。徐。と。お。ま。ま。の。行。旅。の。花。多。ま。ま。の。物。お。比。て。お。ま。ま
 る。重太郎の山家。お。育。て。か。る。容。お。ま。ま。の。新。お。の。あ。ま。ま。の。と。珍。し。と。ま。ま。の。お
 必。ひ。傍。お。潜。と。眼。お。離。ま。ま。の。中。夜。時。窺。ひ。居。る。お。美。女。お。錦。繡。の。彼。お。額。郁。ま。ま。の。留

奇あての裳裾を繕ふ。さるるまゝ在る。むろ三保の松原へ天降るといふ
 天津の女も。さるるのさるる。さるるのさるる。神人衆とあふなり。いと奇あても藤
 のさるる猶身を潜めて窺ひ折る。先小なる武士。何かひけんはくく。重太
 郎が傍を倚よとて。不いぐ忽地小蹲踞を教回額着君。何方小伶傳ぬじ。
 在下等も不在す。候奉はて既小久し。いづく此方へ入らせぬと。後方を信と
 祝かへて。ことごとく信を信り。重太君も在る。汝等素内へ奉り儲は
 上坐へ伴ひ。さるる世に湯をもめさせ。小袖をも。召換させ奉はて。指揮小處
 女等。重太郎が前後左右を。携て儲の。上坐へ彼必小信り。いざか。と素内
 とさるる。重太。更小令あつ。後。傾小の。身をも動さ。是の。心も。老の。僻目の。
 人差ひふ。とあつ。め。某民間小成長て。足下等。ごとく。貴ある。人小君。みこと。致
 まの。は。是。え。の。更。小。の。い。む。と。い。づ。の。老。人。頭。と。掉。争。の。老。の。僻。目。あ。ん。在。下。の。伴。小。笑。寿

次郎教繁とまう。そのの。まぬ。天慶の。比の。西國。あて。さるる。功と。さるる。分も。
 今の。年。老。腰。曲。ま。り。て。物。の。要。小。も。さるる。さるる。さるる。この。傍へ。引。退。き。最。愛。の。援
 と。養。ひ。折。ら。る。今。回。栄。や。末。も。見。ん。の。と。愿。ふ。折。る。僥。倖。と。君。と。請。待。し
 奉。は。て。ま。生。前。の。飲。び。と。不。束。あ。る。ま。で。援。と。り。て。君。が。傍。小。侍。ら。り。あ。つ。父。子。が。二
 期。の。僥。倖。之。尚。謀。へ。寛。と。と。信。を。ま。り。さん。小。ま。の。此。方。へ。と。い。ま。ま。を。容。る。あ。つ。れ
 る。ま。い。重。太。郎。の。身。を。紀。の。か。の。處。女。等。小。誘。引。ま。て。あ。ま。り。さるる。所。へ。小。小。奴。で
 湯。と。浴。させ。髪。と。梳。らせ。ま。り。衣。と。廣。笠。皿。我。て。茶。を。持。出。す。脱。さ。入。い。と。ま
 和。り。さ。在。所。木。綿。の。計。目。衣。垢。深。う。小。引。く。え。て。さるる。も。あ。や。る。文。織。の。は。を。さ
 由。光。輝。を。り。た。る。衣。裳。と。惹。し。上。坐。小。居。ると。等。一。般。多。の。處。女。が。持。出。る。桃
 子。土。巻。ま。り。山。海。の。珍。味。佳。肴。裁。種。と。る。く。置。る。く。黄。金。の。折。敷。王。の。皿。た。と
 へ。天子。將。軍。さ。り。と。も。か。を。り。の。結。構。へ。よ。も。有。が。じ。と。思。ふ。ま。美。で。さ。るる



重太郎



重太郎睡中小
歡樂を極侍

景勢の重太の免小角不審晴。ほどまう渠坐りて意不任。その為体と又
んとその口と喋と在ける。頓て教察とる。やう翁が婢。娟とる美女の年
十八九あるまう。白ひ澄まる。愛致と猶副ん。や種との花鳥と請せ。往せ
まを。彌少の玉の簪象の根。る目。観く。粧ひとて。後小まうて。進と進
づき。まう。素條の奉る。まう。ばとまう。て。額着。筒小言せ。援のことなり。商ひ
とく。香も。汚き。不來のい。い。心許ある。大慶あり。ま。素と。酒。ま。し。め。せ。と。
彼土。築。と。き。は。た。ろ。小。處。女。ま。の。左。右。より。酌。小。ま。を。勸。む。や。ど。小。重。太。の。土。築。
と。り。あ。げ。て。の。ま。ま。と。飲。め。小。醉。う。ま。う。の。舞。足。の。踏。所。と。知。ぬ。ま。ま。と。小。ま。ま。と。
の。老。人。の。歌。ま。ま。と。か。ま。の。席。小。老。年。の。長。居。せん。心。づ。死。は。ま。ま。と。目。を。り
仕。つ。め。ま。ま。と。欽。侍。ま。ま。と。せ。よ。援。の。俱。と。心。傍。で。慰。め。奉。ま。ま。と。言。ひ。ま。ま。と。む。ま。ま。と。
退。け。の。援。の。い。と。く。恥。の。氣。小。重。太。の。傍。を。居。侍。女。と。小。指。揮。ま。ま。と。小。食。心。

ゆる持出。絲竹管弦の音も澄。想夫戀の曲を奏。その音玲瓏と
ま。て。宛。由。仙。境。小。入。は。の。心。と。る。い。ま。ま。と。於。て。重。太。郎。の。顔。は。奥。と。催。し。の。援。
と。土。築。と。ま。ま。と。か。い。ま。ま。と。取。献。め。て。夜。も。あ。け。太。く。醉。う。容。子。小。侍。女。等。の。心。を。て。て。援。と
兩。個。と。縁。て。依。け。帳。内。へ。透。ひ。て。眠。ま。り。て。お。さ。り。ぬ。重。太。郎。の。醉。心。の。心。を。え。れ。ば
床。棚。の。飾。を。或。ひ。の。障。子の。摸。様。も。て。絡。構。と。ま。ま。と。と。の。み。り。た。く。余。の。い。ま。ま。と
祝。も。あ。ま。ま。と。ぬ。金。彌。額。の。類。ひ。ゆ。て。且。顔。郁。々。榮。麝。の。薰。を。ま。ま。と。え。た。の。ぬ
心地。せ。ま。ま。と。て。除。り。の。み。小。渾。牙。さ。戰。慄。を。り。小。ま。ま。と。の。心。を。重。太。郎。の。援。小
む。い。の。の。欽。侍。の。厚。さ。を。謝。し。福。を。く。わ。ん。身。と。契。り。と。借。り。の。落。き。の。小。ゆ。れ。と。の。
在。下。の。ま。ま。と。其。ま。ま。と。解。さ。り。筒。小。言。の。伊。矣。寿。次。郎。教。察。と。あ。ん。名。ま。ま。と。在
下。の。の。姓。名。を。ま。ま。と。の。ま。ま。と。元。來。能。ま。ま。と。の。ま。ま。と。か。く。ま。ま。と。小。欽
侍。の。の。ま。ま。と。以。最。愛。の。わ。ん。身。と。り。て。妻。と。做。し。あ。ま。ま。と。返。す。も。心。ゆ。れ。と。不。猜

閑とて言をす。父教養をひり。西の國にて勲功あり。と物語のやうく。女
 雅を折み。その后場とも。父の心づき。人物心づき。る頃より。その後。て春
 秋。豊小逸を暮ら。の。父の。歎息。吾と運。懐ふ時。二三箇。の主
 と。も。なる。おん。身。も。娘。君。と。冊。々。と。て。栄。曜。栄。花。の。身。も。さ。さ。不。運。り。て。素。衣
 と。遂。に。今。浪。の。身。と。の。あ。と。と。僥。倖。り。て。黄。金。小。之。か。移。ら。の。時。に。小。教。養。の
 田地。と。索。め。お。さ。そ。世。の。安。樂。小。送。す。と。の。の。武。士。の。本。ま。る。ん。愿。ふ。あ。き。借
 と。汝。小。配。偶。と。家。を。與。し。名。を。奉。は。る。ん。是。小。詔。を。飲。び。終。て。あ。と。倚。す。と。小。言
 を。て。あ。り。し。の。頃。信。む。る。心。神。り。正。志。を。夢。の。心。若。あり。の。西。國。潮。平。る。西
 條。高。純。い。今。と。そ。あ。き。さ。さ。さ。家。を。與。し。名。を。奉。は。る。ん。と。さ。の。の。加。旃。你。が。承。に
 と。と。主。家。の。血。脈。る。の。の。あ。と。と。是。小。詔。を。借。り。と。示。現。小。あ。て。大。小。詔。を。密。示
 潮。平。の。あ。き。お。ん。牙。の。容。を。家。ひ。小。神。の。心。若。小。差。は。る。英。雄。小。在。す。を。り。て。い。つ。て

婿小あんと。日夜望と。履りし。小。今日不。因。も。の。所。へ。お。ん。身。が。妻。り。の。あ。と。と。て。嫁。之
 入。奉。を。推。て。婿。小。あ。の。あ。き。さ。の。心。と。千。代。万。代。の。末。の。あ。ら。ぬ。女。夫。と。あ。り。父。が
 志。を。嗣。へ。と。の。尚。小。の。言。と。ゆ。ひ。と。い。と。仇。る。兄。弟。の。あ。き。と。他。生。の。縁。の。あ。れ。が
 こと。一。席。小。並。ん。と。一。枕。の。松。底。の。漏。さ。ぬ。水。の。喩。え。る。あ。の。ま。と。懸。て。あ。の。ま。と
 け。の。莞。示。と。う。ち。笑。め。る。その。面。傷。の。萌。ゆる。春。の。柳。小。二。日。月。光。を。照。す。と。ぞ。没
 ね。ふ。女。小。の。尚。り。や。情。を。心。髪。髻。と。醉。を。添。え。る。再。放。心。と。う。ち。悲。し。さ。る。あ。て。も
 この。殿。造。を。頗。る。法。則。小。超。る。る。あ。き。と。あ。の。ま。と。その。始。め。視。し。と。の。あ。ら。る。貴。人。の
 この。あ。き。小。在。る。と。う。ち。の。女。及。さ。ぬ。と。お。ん。小。王。公。大。人。の。彼。小。や。と。怪。と。す。と。の。あ。ら
 援。り。の。笑。て。妻。の。父。小。その。と。と。言。せ。し。の。の。ゆ。り。し。が。父。の。呵。と。う。ち。笑。ひ。何。茶
 か。さ。う。の。の。屋。造。を。借。上。を。終。と。の。あ。ら。る。あ。の。ま。と。王。心。と。ゆる。と。の。あ。ら。る。白。殿。下。れ。の
 出。立。の。の。廣。と。日。本。小。肩。と。並。ぶ。る。若。も。る。と。あ。ら。る。と。と。不。運。小。と。か。は

斥鄙小身を縮め在との争う本心と失ふべきと言ふるのゆひに況て
主家の血脉するもん身が住せぬのゆひ此屋造も似つじかんとて重太のゆひ
不情日と主家の血脉といひまこと志とゆるとこの因白殿下の出頭ありと然れを
まごの身の内白殿下の一族といふゆひも亦あしく心ゆじしとの顔と程と後ハ赤
笑とまの定めて種との深き分解のゆるる後ハ父小向の具小あゝぬといひ
物とるのせまゝすの怜れとるの妾が罪許さぬ人と恥らひて火影あゝく面
のほひかる海棠の花のゆひ小異あゝぬ重太郎の別乳あゝ後初小も声あゝ泥む
びと性あゝねとえと木石あゝぬゆひその恩愛小絆さゝるる小居ると三日可
まごまご後ハかの小再び面と合せぬの詳小向と便もあゝ唯明暮小媛と俱
小酒宴を設け孫竹の調へ心と慰とあゝ世の忘さるるゆくとまご上るは昇
平樂國浦寫のふるが蓬萊國へ住むりゆかやんとその樂も半ならずぬ小

耳をく推内が和子よ唯今度ゆ里見のゆも未あひぬまご寒けと小物も被さ
風とあひまのあらんとあゝとゆの声小同首とまごの金井が家あゝ翠帳紅圍
の樂も枕頭斥時の夢あゝまご重太郎の尚院のまご七珍の味ハ口中小抄に
美女の姿ハ眼小遮王媛と副麻のまご醒やぬ移王香濃くも匂ふたりのまご
里見近平の進とまご兼のまごゆひゆけぬ家の艱の生未ならず。昨夕よりの
心配とまごの勞さあひけぬ路推内小絆の粗略兼のまごゆと渠さゝ未女あゝ
あゝまごよりゆけゆまごそのまごを詳小せとまごのゆけぬる條ありや。語まご今と向
かけまご重太郎のゆ時小の放心と収め四まごを祝かへ。襟まご合と容貌ハ
改まごと如此まごと始めあり。二位一什と精しく信まご。近平ハ大息あゝるま
ト 竟塞翁が故まごさゝあるとあゝ所謂禍福吉凶ハ糾へる繩のまご。故人ゆひゆ
ゆへハ後の栄枯ハまごまごまご。まご差當まごの難まごあり。客ハ兎小角小この家小

忍びて日音信と候も人在下の見より直小性先生存意を向ひ知縣許へ
 性んとあへ在下の俱小もその不虞を護るべし万忍びがこ小至るの渠さ
 細首も落ち落し適まがての其坐で死らん日未の思義と申ふに
 誓くも猶傍も葉小なること刀おの掛をぬんを重太郎の妻の
 折めぬ足下信義なりと感謝する小語なりその意小仕侍
 つまご早知縣への己の刻と定めらるる故ある小今や
 朝へ父一個の朝餉の準備のつ小あらんて推内小必を焚火下
 進め父方へも送らぬとあふといひ近平実小示る推内小
 権内心のい暴小米と炊き味憎と摺甲斐と多きりゆる春の日
 長けとて昇光ととも昇る旭小窓小輝とさうとて近平の推内小
 飯と齋し尚万ののあはれ小権内をとりてそのこと告げ小ま
 夫もこの隠る

ひて他小面と初々きりる勿論小も作らるる貴客がこ小在する
 と先醒へのまうをまド権内も此心ゆよといひわらとま出する

第六回 師恩を報ひんと里見知縣を弔ひ 老命を損て高資重太郎とをらひ

粵小九郎高資の心小なる重太郎ま系柱さ人まを落し密小
 飲びをやらあ人の知縣を欺さしよ跡より彼奴は性バ聊小ひく
 龍のま里んんと金井の両個に他あぬ父子なる小あると告げ
 恨むビ今朝の早天て多せんともありの朝餉と給て后小を
 つけ湯を沸して飯櫃の隅小遺まる宿飯と三椀喰ひつ金井が
 折る知縣の支卒門の戸明て入来唯今急小言すことあれば吾
 等と俱小来あへのりる去来と上で携小尻うちりて假るわ

高資の祝か入至て。その近曾の苦勞あり。たとへば使小使らんと。今朝己の刻
 少の孫女んと約定しつゆりのとき。辰刻小もあつぬらうらう。かく使小を心懸き
 るる。と嘆けの支卒が。昨日の約のさあんぢれどもまご其他小のさきさきあり
 とす。出頭ある門野めがまご黎明はよりて頓ちあけと焦燥あどか人の性
 急なるの常小合点さるのうら。應と回答のにて朝の要向うち仕まひ寛
 とまて来一あまが。さご今比のあめが口失らると急まそと罵りてあつぬ足下
 計らひの悪さごまご流見と地頭あ。勝まめとあつぬあり。ご秋
 ありあんと主と議るも日来より。ご苛くのと責つるまはななるべし。そま
 空て高資の輒然とうちうらひ其并達でまご此あつて柄小柄とすげと蹠蹠
 いそぐあひ取りぞあつん。さご諸俱小あつてとまをや衣服とあつぬあつて門

の戸引よせ支卒とえ小まて路と急ご程る。知縣が莊へいごま取
 次の漢士ものまち任する凡情あて些もえまご此方へとえ小まて業
 内とほ昨日の席へあつら。程もあつてせひ知縣荒穢しそ侍十人計
 狗九郎も出来至。高資とつるより倍と白眼汝老老上と名もひ既小記の
 文さくも献りあつて小和郎と夜深小落しをさつと知つぬの在て注進せり
 えごま曲まるるのあつ何余夜小紛まて時暗まさんやと小放て汝あつて罪
 の実否の問でもあつら。緯明と地小首伏してその罪科小伏すじ。といへ高資
 額着て這い更不存もあつぬ雜向小領るのうら何者う斯のど足跡形も
 る足嘘と言一あげて吾と父とを亮小陥んとする小れ怒と左様のこひりひ
 但一作日も言せや馬盗人と逐ゆきより。今小放て宅へ飯らひを隣の小
 小美のさかの次皿人の這と逃去て馬の此方へ取戻し。その馬主小誘るあつて

酒の席の列に上りて其の後の行方をとまじき。され在下
 今日己の刻を限りし館へ召俱を乞ひて文を献まら。そのまの置がく
 今より渠が平生とく。性所を尋ねて人んとまわす。その所へおん使の
 系りしまのむさふは。要時に暇場のく。かまはる在所を尋ねる
 時日と移さずて俱にまう。えんらあを。と慇懃小言しけま。
 知縣の怒まるを愛より揚て甘く吾と詐編て遁まんとまるとも遁さんや。
 汝拙さ智略をりて欺うんと欲まるとも此方小黒を眼あを争汝を欺う
 まんとま者共這奴と縛め辛さ目んせよとのより早く心ぬらんと雜式
 どのをくくと飛鬼を矢庭ふこまを板椽より卸えんとする。ど小高資
 渠等を信と白眼尾終るせを雜人ともや。知縣の命ありとも。五口小竹の
 罪あつて搦めんとの秀めむ。ま。武士を生捕法汝等。いんはありや。と呵むけ

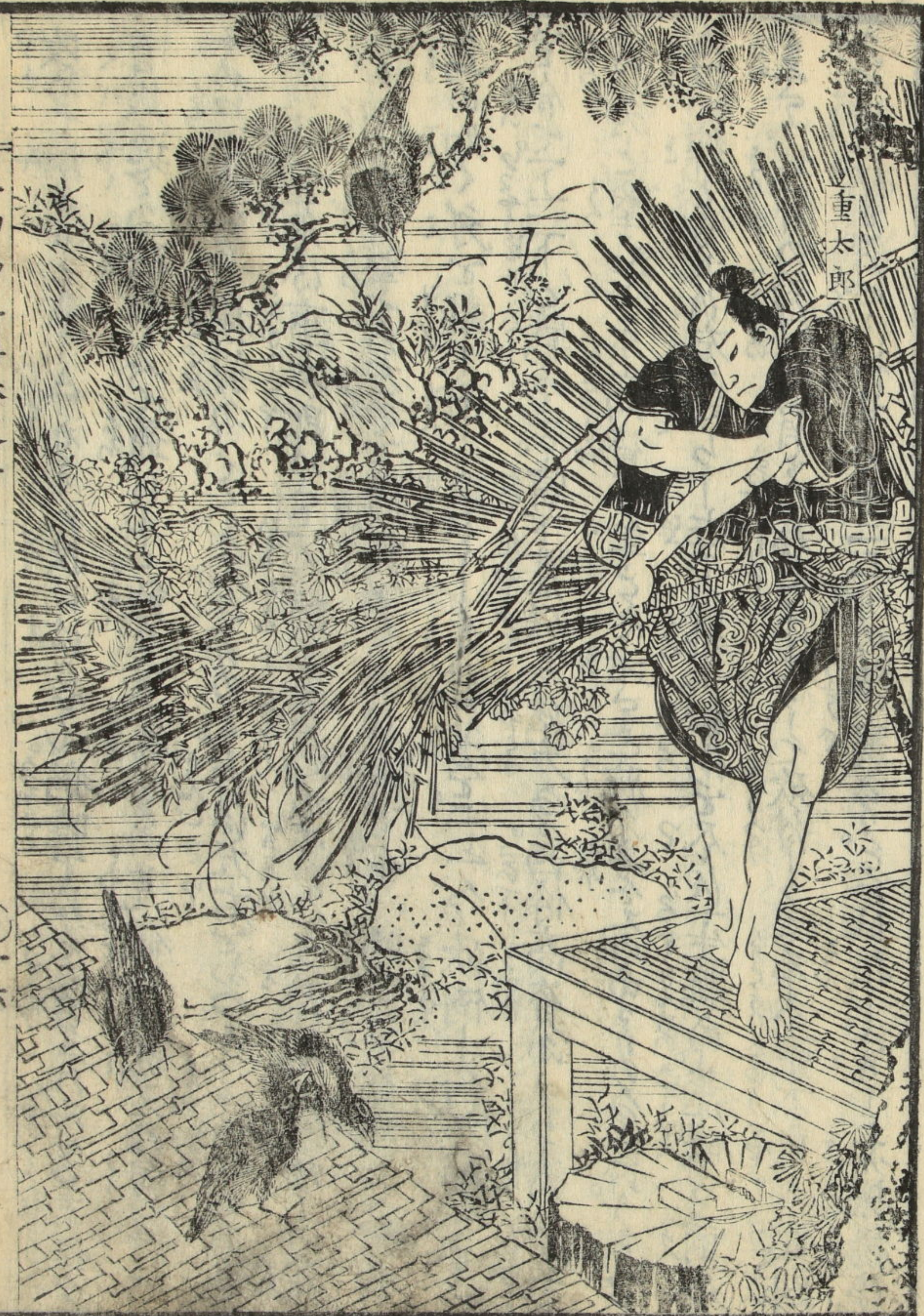
雑人等のその威小畏ま。日来より。恐怖を。高資のま。左右のく。と
 下さび少。瀕瀕て。えける。と。物九郎の衝とまかり。の甲斐なる。雑人とも。
 知縣相公の命あり。損。搦めよとの。果。自。才。左右の。小。麻。索。と。保。か
 けて。ま。ひ。く。雑。人。は。小。扇。ま。ま。吾。劣。ら。と。板。椽。小。飛。騰。下。て。ま。と。根。高
 資。今。の。ま。ま。と。組。と。沈。ん。で。振。り。と。ま。左。小。楸。て。白。洲。の。ま。中。一。抛。ま。を。処。小。
 敷。充。る。小。砂。利。の。左。右。散。乱。脊。半。と。淫。ま。う。破。狼。藉。よ。と。知。縣。の。左。右。小。
 従。ひ。し。侍。ど。も。ま。う。と。ま。か。り。吾。組。め。んと。競。ひ。蒐。る。と。高。資。も。ま。う。板。椽。小。
 敷。る。薄。縁。の。偽。撞。つ。と。脅。力。小。任。と。曳。と。ひ。け。上。小。お。る。三。四。人。將。茶。倒。し。小。
 ち。と。仰。向。小。お。る。あ。り。と。ま。い。ん。苦。し。と。の。計。ま。あ。の。間。小。雑。人。等。あ。は。左。右。
 と。ち。取。撲。泳。が。う。小。重。と。と。取。且。取。眞。縁。を。ど。小。高。資。了。得。剛。る。ま。と。も。才。
 小。寸。洗。の。帯。と。ま。い。ん。と。の。詮。方。る。竟。小。千。筋。の。縹。使。小。か。を。阿。容。と。搦。ら。る。

外方（あき）の（ま）がくく白洲（あき）に（ま）なる（ま）溜屋（あき）戸（ま）と（ま）就放（あき）と音（あき）の（ま）受え（あき）ければ（あき）豹九郎（あき）耳引（あき）
 してこの何（あき）と袴（あき）の（ま）裾（あき）と左（あき）小楸（あき）て此方（あき）来り（あき）る小（あき）その年（あき）二十三（あき）四（あき）の（あき）い
 健（あき）ある（あき）壯士（あき）が（あき）髪（あき）あり（あき）乱（あき）牙（あき）と（あき）嚙（あき）と（あき）あ（あき）後（あき）小把（あき）つ（あき）雑人（あき）原（あき）が（あき）襟（あき）首（あき）搦（あき）んで（あき）左右（あき）
 抛除（あき）腰（あき）の（あき）刀（あき）の（あき）反（あき）うち（あき）入（あき）て（あき）汝（あき）者（あき）頼（あき）と（あき）関（あき）よ（あき）若（あき）関（あき）ト（あき）と（あき）あ（あき）く（あき）踏（あき）毀（あき）ち（あき）て（あき）入（あき）ら（あき）ん
 とも（あき）雑（あき）さ（あき）小（あき）あ（あき）ひ（あき）と（あき）ひ（あき）ッ（あき）右（あき）の（あき）足（あき）と（あき）揚（あき）て（あき）白洲（あき）の（あき）戸（あき）に（あき）と（あき）二（あき）ッ（あき）ッ（あき）カ（あき）小（あき）任（あき）一（あき）筋（あき）
 破（あき）き（あき）バ（あき）戸（あき）板（あき）ハ（あき）半（あき）ト（あき）リ（あき）推（あき）け（あき）た（あき）ぬ（あき）毛（あき）刀（あき）を（あき）豹（あき）九（あき）郎（あき）大（あき）音（あき）あ（あき）げ（あき）そ（あき）め（あき）く（あき）你（あき）何（あき）奴（あき）
 ろ（あき）ま（あき）が（あき）一（あき）郷（あき）の（あき）裁（あき）判（あき）と（あき）ま（あき）る（あき）糸（あき）縣（あき）の（あき）廳（あき）と（あき）ら（あき）と（あき）荒（あき）一（あき）。乱（あき）妨（あき）狼（あき）藉（あき）言（あき）語（あき）小（あき）終（あき）ら（あき）う（あき）。
 そ（あき）と（あき）者（あき）共（あき）搦（あき）め（あき）捕（あき）と（あき）呼（あき）り（あき）ッ（あき）長（あき）押（あき）小掛（あき）る（あき）突（あき）棒（あき）と（あき）あ（あき）つ（あき）り（あき）伸（あき）て（あき）踊（あき）り（あき）鬼（あき）バ（あき）
 雑人（あき）等（あき）も（あき）こ（あき）と（あき）小（あき）扇（あき）ま（あき）ま（あき）と（あき）ま（あき）ひ（あき）る（あき）小（あき）十（あき）子（あき）と（あき）見（あき）め（あき）り（あき）て（あき）小（あき）使（あき）り（あき）尋（あき）ね（あき）る（あき）
 小使（あき）か（あき）ま（あき）と（あき）は（あき）小（あき）叫（あき）ま（あき）ま（あき）と（あき）踊（あき）り（あき）鬼（あき）と（あき）彼（あき）漢（あき）子（あき）の（あき）袴（あき）と（あき）せ（あき）び（あき）先（あき）の（あき）本（あき）も（あき）小（あき）懸（あき）
 め（あき）せ（あき）で（あき）群（あき）ヲ（あき）集（あき）ま（あき）る（あき）蛆（あき）虫（あき）め（あき）る（あき）命（あき）の（あき）掛（あき）替（あき）よ（あき）も（あき）あ（あき）ら（あき）じ（あき）子（あき）向（あき）ひ（あき）る（あき）入（あき）も（あき）府（あき）さ（あき）び（あき）。

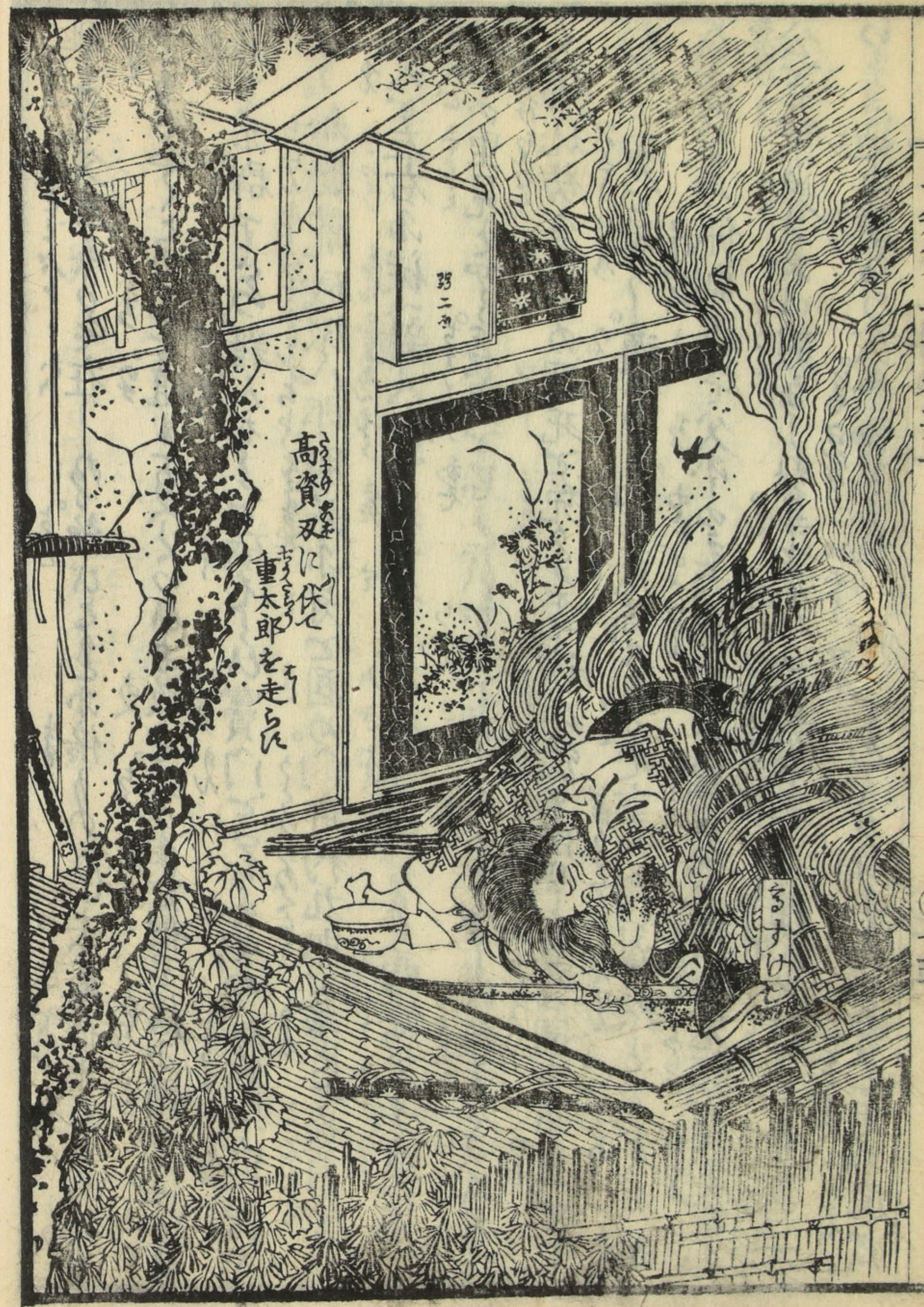
冥土（あき）へ（あき）旅（あき）ご（あき）ら（あき）う（あき）て（あき）呉（あき）ん（あき）と（あき）い（あき）ら（あき）る（あき）も（あき）あ（あき）ら（あき）せ（あき）び（あき）腰（あき）刀（あき）長（あき）さ（あき）り（あき）九（あき）三（あき）尺（あき）許（あき）で（あき）旭（あき）小（あき）輝（あき）く（あき）垂（あき）
 氷（あき）の（あき）氷（あき）さ（あき）と（あき）ぬ（あき）と（あき）放（あき）と（あき）ま（あき）と（あき）と（あき）太（あき）刀（あき）風（あき）火（あき）と（あき）薙（あき）を（あき）ら（あき）び（あき）この（あき）威（あき）勢（あき）小（あき）僻（あき）易（あき）ま（あき）て（あき）。
 更（あき）小（あき）傍（あき）つ（あき）の（あき）もの（あき）あり（あき）。この（あき）間（あき）小（あき）破（あき）ま（あき）と（あき）る（あき）。白洲（あき）の（あき）戸（あき）は（あき）へ（あき）手（あき）と（あき）か（あき）け（あき）て（あき）曳（あき）や（あき）と（あき）
 曳（あき）バ（あき）破（あき）離（あき）と（あき）と（あき）溜（あき）屋（あき）戸（あき）微（あき）塵（あき）小（あき）碎（あき）と（あき）と（あき）い（あき）り（あき）や（あき）應（あき）と（あき）潜（あき）入（あき）る（あき）高（あき）資（あき）の（あき）敢（あき）
 ろ（あき）く（あき）も（あき）終（あき）め（あき）ら（あき）ま（あき）と（あき）雑人（あき）を（あき）ら（あき）小（あき）追（あき）ま（あき）ま（あき）と（あき）る（あき）寒（あき）と（あき）此（あき）處（あき）へ（あき）来（あき）か（あき）り（あき）これ（あき）と（あき）う（あき）て（あき）。
 この（あき）里（あき）見（あき）性（あき）何（あき）と（あき）ら（あき）あ（あき）る（あき）。あ（あき）ら（あき）小（あき）在（あき）下（あき）が（あき）寛（あき）と（あき）憐（あき）と（あき）救（あき）り（あき）ん（あき）と（あき）その（あき）ゆる（あき）る（あき）。その（あき）
 志（あき）の（あき）嬉（あき）し（あき）く（あき）の（あき）辱（あき）け（あき）り（あき）あり（あき）る（あき）。そ（あき）や（あき）虎（あき）の（あき）口（あき）小（あき）衝（あき）ま（あき）と（あき）る（あき）吾（あき）と（あき）救（あき）り（あき）ん（あき）と（あき）と（あき）毒（あき）蛇（あき）
 の（あき）牙（あき）小（あき）係（あき）ら（あき）ん（あき）と（あき）の（あき）念（あき）あり（あき）ま（あき）と（あき）半（あき）と（あき）曳（あき）を（あき）里（あき）見（あき）近（あき）平（あき）。その（あき）命（あき）ま（あき）ま（あき）と（あき）ゆ（あき）え（あき）び（あき）は（あき）し（あき）や（あき）
 此（あき）身（あき）と（あき）八（あき）裂（あき）小（あき）切（あき）刻（あき）ま（あき）ま（あき）と（あき）あり（あき）と（あき）争（あき）う（あき）鶴（あき）恩（あき）と（あき）忘（あき）る（あき）と（あき）こ（あき）の（あき）い（あき）も（あき）果（あき）次（あき）刀（あき）及（あき）み（あき）
 り（あき）て（あき）傳（あき）め（あき）の（あき）絶（あき）切（あき）ま（あき）ま（あき）と（あき）ひ（あき）り（あき）下（あき）り（あき）ら（あき）と（あき）小（あき）の（あき）場（あき）と（あき）通（あき）ま（あき）と（あき）あ（あき）ら（あき）と（あき）高（あき）資（あき）が（あき）ま（あき）と（あき）
 楸（あき）て（あき）二（あき）步（あき）三（あき）足（あき）と（あき）ら（あき）と（あき）来（あき）り（あき）と（あき）不（あき）意（あき）を（あき）尋（あき）ま（あき）と（あき）且（あき）く（あき）の（あき）呆（あき）ま（あき）と（あき）し（あき）雑人（あき）等（あき）倍（あき）と（あき）心（あき）で（あき）

とり。恋し。傍小速る。突棒刺侯。或の長柄の袴。とひの揚。お後と先とあつとり。
勢一すも動せど。競ひ菟ま。近平の物と。氷と氷。氷る人。刃と上段小構え。
むふののど。六拜と撃。唐竹割。おるとんと。白眼つ。ある面。魂小。左右なく。撃も
か。らねど。流才小。人。救ひ。弥倍。道。果。ぶ。も。ん。え。ざる。お。か。の。権。内。が
為。知。小。固。て。扱。こ。も。大。の。の。発。を。け。ま。と。重。太。郎。の。身。を。固。め。暴。風。の。雲。吹。こ。る。
勢。ひ。あ。り。て。弛。本。り。か。ろ。小。和。縣。の。惣。門。と。深。く。強。く。人。と。あ。ら。げ。理。小。敷。妻。の。人
声。さ。え。律。の。顔。ま。の。分。さ。も。ど。父。と。里。見。と。取。掛。て。撃。さ。ん。と。す。る。小。勢。ひ。は。遅。く
の。さ。い。あ。ら。う。ん。と。傍。の。塘。を。救。う。や。る。松。樹。小。攀。登。り。是。王。と。形。を。程。小
入。り。さ。し。其。さ。案。小。差。り。び。脱。小。先。と。ん。え。け。も。重。太。郎。の。物。と。あ。ら。げ。
腰。力。と。ね。と。放。し。幸。ひ。吹。ら。る。ま。が。雜。人。等。の。心。ひ。も。け。ぬ。お。後。の。故。と。防。ぎ
ふ。て。左。右。さ。の。と。寤。き。靡。け。霎。時。支。さ。る。者。も。あ。る。あ。の。間。小。重。太。郎。の。つ。く。と

馳。考。て。父。君。を。も。て。在。一。の。る。飲。び。と。小。倍。り。の。ぬ。去。来。在。下。と。り。あ。共。小。
此。も。も。や。く。の。不。と。道。と。あ。ら。う。ひ。も。敢。む。父。が。身。を。把。り。後。小。圍。ひ。て。斥。さ
難。で。小。群。ま。る。雜。人。を。と。砍。も。ひ。實。門。と。さ。ら。お。や。惣。門。へ。近。は。く
と。り。和。縣。荒。磯。隈。八。郎。腹。巻。小。刃。を。固。め。門。野。豹。九。郎。と。指。して。近。習。者。八
九。人。と。左。右。小。徒。へ。雜。人。們。と。ま。さ。る。不。義。暴。戾。なる。西。條。父。子。並。び。小
弟。子。里。見。と。や。長。上。と。忍。ま。さ。び。和。縣。と。備。へ。ま。の。こ。ろ。に。雜。人。等。も。あ。ら
く。傷。乱。妨。り。ひ。その。罪。死。を。免。れ。さ。す。と。速。小。條。小。伏。せ。と。異。口。同。音。小。罵。り。て。
あ。の。一。刀。を。見。り。道。さ。と。切。て。菟。泳。と。さ。る。と。重。太。郎。の。奮。然。と。力。足。成。踏
あ。ら。じ。ま。が。佩。副。を。把。て。父。小。の。え。大。音。あ。げ。て。罵。る。や。猿。毒。无。頼。の。匹。夫。め。り。
公。と。益。小。着。て。その。罪。あ。ら。ぬ。鼻。を。負。し。清。潔。と。ま。く。と。陥。人。と。け。り。と。も。皇。天
り。ま。ご。地。小。墮。り。ひ。争。汝。等。が。非。望。の。奴。ら。も。身。小。ま。さ。ぬ。是。返。の。過。然。



重太郎



高資
に伏して
重太郎を走らば

改めて謝するところ。命をうけの扶けはききん猶曉るるを妨るる。汝等主後が
 首級逸る小破あきて通りんと飽まき小破けき荒磯始め流る弱冠のそ
 その口と生るる。撲裂りてくまらざりののとあは左右とあつとく撲透りあ
 せり。破て荒磯重太郎の一人獅子奮迅の威勢と震ひ阿修羅王の荒
 う如く右を撃て左を薙裾とくくハ踊り上り。頭と撃つハ搔着。飛
 鳥の如く外と翫。前小進。近習等と二人。破倒。約九郎とく
 里合て上下と戦ふる。當下荒磯を後方ある西條高資小と対ひ
 共殺失と撃つわど高資の年こそ老。腕小者とのあものるまがうちる
 太刀と絆ともせり。右小。左。秘術と尽ひ一生懸命荒磯が前小
 とら。近習の弱冠が肩と脅力小まうと破付。元來重太郎が佩副
 ぬて短けき心小任せ。二三寸の薄夷あり。仕損。亦振揚は。

その間小荒磯が曳とのひ肚と目かけ。お逃むた刀と心はうと身と反して避んと
 せり。運や場けん避損。右の太股と破さうと嗟やと脛むと奪うけ。二寸三
 寸。折丁と撃小け。高資を寒み。別の者切をひて寄つけ。この
 時重太郎の溺る小約九郎と破伏せて父や奈何かと振むけ。この景勢小
 駭き怒り。飛來して荒磯が右の腕と丁と破はる。急ぎ撃きて荒磯の防ぐ
 便溺りあふ。冬冬の痛手小弱は。重太郎のつけ入。その後。父と破
 例。甲をさす。威勢小怖。けん雑人等。此地処小纏居る。敢て
 妨まるのみ。里見の遙彼方。雑人等小把搦。危る。父と破
 疾負。父と何めま。かくて。表の方へ。高資と
 股の痠口と。緘。肩小引。表の方へ。高資と
 小思きて。誰も支え。僥倖。支。喘。飯。高資と

肩より下し父よりよ心地の奈何小乳と定り小持の人在下わきにてあつらひの御令
一乃の人教と振ひて寄来るとも肩あつらひいと深疾ありあつらひ。僥倖ありて
矢而と除り。いさく菜と進らせんと誘てお小持する。金瘡るど小功持の菜を
さう御膳あつらひ湯のち冷て火氣もほこの便所と水もて絞王父がらへ
沃さつらひの菜の奇特小高資の眼と祝ひつらひと記にちと信と祝ひつらひ
中。叔の汝の奈はれ。念の処あり在つらひ昨夜系社諸共小世処と道きまき
あつらひや高小倉卒のうちありて同言暇もなきら小乳のひよりぬ深疾成
負てまきり後の夢のぞく幻小似て定と骨をえむその杖と疾変んといふ小重太
郎の畏て命小任し怖と信ひおとむ出りて比身の上心許あり荷助許の
まき渠と持と怖の并でい出る。まき里見へんと池せま云小はゆいと指終落る
初穂小信と高資双眼小濡るまきりの涙と濡り痛む足と痛むて重太と初

ぞとと掛へた危小上坐小お居ら。何と何と做しあか何と何と顔顔
より治とあせんと誘て心小巧とあつらひ折とぬらつらひ昨日今日小降る綱
の迫りありて遷る。若来らつらひその日本の乳管あり小信ひつらひと
あつらひと察し小けまきとあつらひ系社が小信とせ難あり。落しあつらひ
せん。と巧めりありて在下と實の父とあつらひせむと今日の一寸と危とそ跡小送
する牙と捨て危難まきと救りつらひ勿体あつらひ志小痛くゆきそめく君の
昔見小あつらひ心父君へ天慶のむじ平将門君と牒し合せ山陽南海小威
と輝し。且西海小名と揚り伊豫椽純友君あり。将門君の東國あり既小
亡びあり。後も純友君の威勢強く成ひの節度使遣付使ありと多く下向
のありとつらひ弟純素君の外一族は類多く既小天下の三分ありてその
一とつらひ有つらひと天魔の不在小あり一人の孫女と純素君の婿ありと約諾

あり。がゆへに君不圖その妹女不懸想のひ。故に強めて野をば見れ。和君
 とその腹不慮のひ。不純素君のそのとて。皆て懐里の兄弟不和となり。
 夫より後の對面多く胡城の隔とほのめらる。於て心内の者も自他隔と
 して。腹心。脇腹の伊賀。壽ども。常少のあつても。多く。疎しくなり。けきと。
 千尋の堀も。残穴より。あつても。と。人。諭めて。威勢。拵め。めく。あ。ず。さ。於。て
 純素君の敢なく。満仲。不。縁。ら。ま。て。二。柄。の。あ。と。消。ぬ。層。被。ま。て。齒。の。ま。さ。さ。る。
 理。不。洩。せ。ぬ。父。君。の。ひ。や。く。威。勢。衰。ふ。伊。豫。の。目。代。橋。の。遠。保。が。為。不。生
 捕。ま。せ。む。死。不。死。の。あ。の。その。さ。和。君。が。兄。ある。重。太。郎。と。言。ふ。の。同。く
 擒。不。つ。さ。あ。ひ。て。遠。保。不。付。ま。の。ひ。つ。た。う。不。和。君。の。僅。不。み。采。放。方。出。り。ぬ。
 者。鮮。その。人。を。ま。あ。ひ。と。ま。不。純。素。君。の。ま。え。と。憐。れ。見。せ。ば。ま。た。九。と。て。
 既。不。人。も。知。つ。ま。と。い。夫。不。紛。ひ。て。和。君。と。重。太。郎。と。号。ら。ま。と。遠。兩。個。と。二。個。の

ごとく呼のひも。僥倖。多。在下。礼。軍。の。うち。と。救。ひ。あ。せ。西。國。四。志。の。御。も。是。と
 往。ま。さ。あ。り。或。内。東。國。も。ま。ま。此。あ。り。國。々。の。地。へ。伴。ひ。ま。り。せ。女。兒。系。托
 と。の。年。の。や。ど。似。つ。り。こ。故。不。同。胞。と。披。落。と。の。年。月。娘。ひ。あ。げ。て。幼。靜
 と。る。る。か。不。失。不。り。が。君。の。性。質。と。受。嗣。の。不。疑。ひ。あ。け。し。い。未。特。母。敷。密。不
 頼。び。寄。と。東。山。の。摸。様。と。探。不。將。門。君。の。公。達。不。平。太。郎。君。と。言。は
 ぬ。と。之。宿。玄。と。逆。め。の。ん。と。め。諸。面。と。巡。不。あ。の。と。い。人。と。凡。の。便。不。吹。一。う。ど。
 その。在。不。と。と。く。宍。ウ。不。せ。ひ。因。て。深。く。も。心。不。収。め。その。便。不。と。伺。ひ。ら。不。慮
 なる。難。の。お。本。不。倅。の。爰。不。及。び。ず。昨。夜。和。君。と。系。托。と。落。し。て。在下。跡。不
 送。不。知。縣。と。欺。不。追。不。ま。ら。ん。と。い。ま。し。と。一。所。の。方。便。不。方。不。由
 倅。不。不。道。ま。ん。て。い。あ。る。と。粗。推。察。あ。せ。ら。る。和。君。が。素。性。変。の。親
 曲。不。系。托。不。い。合。め。且。藤。原。家。の。内。系。圖。不。渠。不。持。世。鬼。石。方。へ。落

著て二兩日経へんぬ。和君の心と奉り且そのの突と細少の流流せと
心ゆきせしが是も又画屏とあるの心ゆき。然りも和君の是よりして草津の鬼
石と訪ひ糸柱ありその一卷と恙なく受把あり時節を侍て又君が宿を
果しぬりし今言をめぐ将門君の遺體ありとさげがゆゆ小ゆて櫻り念
互小力とありつるあまの経揚とほの言とていひは是のこゝの呼せとあふ方
便とつとど思てのつてりと思とほ臣とを父と呼る多年の之れ今さる小
謝する視のゆりゆいど是の全く在下が。孤忠の致す所と救へぬよ嗟懐かや
六十小ゆりしと軟ひささく惜むとさあふ秘と愿々の今十年も是も存命て
在るあふ君が勇くと旗揚と眼前小祝んりのと任せぬりの法論の命の
際小いと長物語不息うも後斗も是えけまの重太郎の抱とあけ耳の
傍小はさうつて送て洋小兼つたり。始めて受るこの方の素性も是より後の

尚更小心と励まし今の教誡御も差ふす。然るあても落人の秋の風
小も怖るるとや廣と天地も溢と身の月日照さぬ干隔湯漢ふとありて
此身と養育しがをり成長するのこゝろ武藏軍界を教え流し又が
箕裘と嗣せんとの信心の辱るさの生の親小も猶倍て恩深く徳言るその恩
徳と点も報いさ。養も真去へけりとの日々生涯の透懐あり。乞とさるり養小
負の道徳さけの道と出洋もくをて徳するふ名医と後で療治せん小
かそりの痺平は小。ささるるとあふ。其小就ても心小かゆの里見近平が存亡
あり渠る多く小雜人們小うち負さるりのあの中を。皆まど彼処と後彼あり必
く入来べき言と也是運との不審あり。下郎もさるも老実あり。権内さ入け方とか
らひ渠もと俱小三個あり。芳り杖と通まんとの係細あると。と吐さるる
とあが。窓の戸にわけ首さう出て右左と送小祝やとさるると。小教と小

み。地のとて瘰癧と二個おとす。ちとてふあふ。さういふが奈何かせり。とて葉の
決せ。心強。く。の。り。の。う。軍。勢。介。て。高。資。の。瘰癧。と。技。け。ま。と。か。く。若
この。回。小。糸。縣。の。一。族。押。あ。ら。ぶ。こ。も。ま。ま。こ。よ。る。大。願。つ。の。速。く。小
去。小。ま。じ。一。個。ご。も。疾。く。来。よ。と。さ。ふ。の。う。ま。こ。再。び。窓。より。頭。と。突。出
ち。て。彼。方。此。方。と。視。中。折。く。嗟。や。と。叫。ぶ。声。小。後。さ。此。方。へ。亦。ま。の。高。資。の
腹。十。文。字。小。搔。こ。ま。て。脱。小。吼。と。捨。ん。と。し。重。太。郎。の。飛。着。ま。ま。づ。その
刀。と。押。へ。こ。ろ。く。物。小。殺。ひ。の。り。近。平。権。内。兩。個。の。うち。一。個。来。ら。ぶ。拵。力
と。合。一。と。さ。ま。さ。う。療。ま。る。う。て。二。回。本。後。あ。ら。め。ん。と。あ。り。げ。と。そ。ん。も
碎。け。せ。ま。殺。さ。ら。ど。あ。ら。ぶ。若。ん。い。と。と。さ。と。の。ひ。も。果。ぬ。小。高
資。の。若。し。と。自。心。と。吻。も。あ。ん。ど。れ。志。の。外。小。修。り。瘰癧。と。も。瘰癧。と。も。の。ひ。ま。り。の
あ。ら。ぶ。と。こ。え。來。惜。く。ぬ。老。の。外。の。殊。小。瘰癧。と。負。つ。も。の。め。ま。こ。の

よ。小。存。生。へ。ん。と。他。の。厄。々。ふ。る。り。い。と。地。と。ど。死。ま。ど。て。在。る。が。和。子
も。と。速。り。の。ま。り。免。角。を。回。小。糸。縣。の。一。族。隊。位。と。り。て。取。圍。ま。が。こ。と。と
孔明。が。智。項。王。が。勇。あり。と。て。由。淋。あ。ら。ん。ま。ま。が。在。下。が。自。心。あ。ら。の。和。子
死。地。小。入。は。あ。り。と。心。着。ま。り。近。る。刀。と。把。て。死。と。急。ぐ。老。の。心。と。汲。ら。う。と
然。も。も。と。や。退。り。へ。こ。の。ひ。も。畢。ら。ん。眼。と。塞。ご。忽。地。自。心。の。後。小。け。ま。が。
重。太。郎。の。齒。と。切。ま。諸。も。と。振。り。て。天。と。作。ぎ。地。小。俯。妻。の。歎。さ。ら。紅。流
襟。小。溢。ま。り。が。倍。と。心。と。把。あ。り。死。る。人。の。再。び。飯。ら。び。女。と。と。歎。さ。小
時。と。移。り。取。圍。ま。ま。さ。の。が。老。人。が。志。由。水。の。泡。去。來。迷。ふ。こ。ら。あ。ら。ん。地。の
あ。ま。ご。も。幸。來。目。本。恩。あ。ら。ん。の。尸。と。の。ま。ま。金。ん。の。は。ら。う。と。さ。ま。と。と
後。小。の。葬。ら。ぶ。と。暇。の。あ。ら。と。ら。お。せん。と。と。又。と。と。て。死。ま。の。を。此。方。空。し。と。こ
鞘。小。栓。ま。つ。け。ら。燃。袋。小。同。と。同。め。是。あ。り。く。と。息。改。て。火。と。摺。ぬ。拵。葉。と

二冊目 第二冊 終

〇七

あつめて^か吹^くつ^つま^まの^の火^ひ見^みて^て燃^もあ^ある^る。重^{ちゅう}太^{たい}郎^{らう}の^の掌^{てのひら}合^あせ^せ南^{なん}無^む函^つ天^{てん}頓^{とん}生^{せい}
が^がい^いの^の要^{よう}時^じ念^{ねん}ど^どる^る。其^{その}の^の火^ひ氣^き熾^しあ^ある^るけ^けり^りの^のゆ^ゆえ^えか^かく^くて^ての^の心^{こころ}あ^あら^らは^はす^す。
吾^{われ}志^しと^と得^える^るこ^この^のあ^あら^らは^はす^す考^{こう}批^ひと^と俱^く不^ふ紀^きあ^あら^らは^はす^す。孫^{そん}陀^た佛^{ぶつ}と^と唱^なへ^へる^る脊^{せき}骨^{こつ}戸^こ
より^{より}あ^あら^らは^はす^す上^{じやう}野^のと^とさ^さら^らに^に出^でけ^けり

善^{ぜん}知^ち安^{あん}方^{ほう}忠^{ちゆう}義^ぎ傳^{でん}第^{だい}二^に輯^{じつ}卷^{くわん}之^し三^{さん}終^{しゆう}

